対話しながら進む園と町であること

園長　野中　泉

ご存知のとおり、アトムには園長室がありません。私が座っている事務室は、門に一番近い園の入り口にある部屋で、外に向かう駐車場側も保育室に続くテラス側も周囲は全部窓です。ですから、朝も夕方も開け放した窓から「のなちゃん、おはよう」「さよなら」と大人からも子どもからも次々に声がかかります。散歩から帰ってきた子どもたちが「のなちゃん『だんごむし』いたで」と窓から小さな手の中の宝物を見せてくれることもあるし、若いお母さんたちが勝手に入ってきて「ちょっと、見といて下さい」と小さな赤ちゃんをベビーベットに置いていくのも、毎日の当たり前の光景です。時には「ねえ、誰か話きいて、旦那とけんかした」と涙々の来訪者が飛び込んできて、事務室の奥の小部屋が急遽人生相談の部屋になることだってあります。

一方、私の座っている椅子の背中側は、職員の休憩室とつながっています。順番に休憩にやって来る保育士たちの楽しげな笑い声やにぎやかなおしゃべりが、普段の私の仕事のＢＧＭです。時には、少し沈んだ顔の保育士を周りの仲間が慰めている声が聞こえてきたり、誰かの呟きに呼応しながら、自然発生的に熱い保育談義がはじまることもあります。休憩に来た職員が、ひとり、またひとりと話の輪に加わるのにつられ、私もその語り合いの仲間にいれてもらうことも少なくありません。アトムで働き初めてまだ日が浅い私ですが、この席に座る毎日が、私にアトムという保育園を一緒に作っているのは誰かということを、繰り返し、繰り返し気づかせ、教えてくれているように感じています。

昨夜（８月３０日）は、10 月１日から施行される保育料無償化についての説明会でした。当初は、保護者への説明会を予定していなかった熊取町の保育課の方たちに「いや、アトムはどうしても保護者と職員に説明をしてもらわないと困ります」と無理をお願いしたのは私ですが、「大事な説明会だから、絶対一緒行こう」と周囲に率先して声をかけてくれたのは、保護者会の仲間と、アトムの職員たちでした。たった１０日しかなかった準備期間に「これは、私たちの子どものことやから、私らが当事者や」というだけでなく「熊取町の子どもたちに、これからもちゃんと安心な給食や安心な保育は保障されるのか」「アトムの先生たちが困ることになるなら、一大事や」と自分のことだけでなく、熊取町全体の子どものこと、アトムの職員のことを当たり前のように考えてくれながら声をかけあう姿に、アトムが親や職員と共に重ねてきた「共同」の歴史の確かさを思わずにはいられません。

説明会当日はあいにくの雨、それもバケツの水をぶちまけたようなどしゃぶりでしたが、その中を傘をさして、小さな赤ん坊を抱いて、幼い子の手をひいてと、ぞくぞくと人が集まってきてくれました。保護者、保育士、アトムの理事、評議員、そして熊取町の議員。結果、１７０名を超える人たちであふれかえったホールの様子を役場の保育課の人たちと並んで見つめながら、私は数日前にひとりのお母さんが言った、こんな言葉を思い出していました。

「のなちゃん、これは、ただ説明してもらうだけの会じゃないよなぁ。私たちのアトムは、どんなことでも親と職員が本音で話し合いながら、対話しながら決めてきた、そういう場所なんです。だから、このことも一緒に考えたいですって、役場の人たちに伝える日でもあるんやんなぁ」。

現在当たり前にあるアトムの休日保育や一時預かり保育、夜間保育等のはじまり、そして姉妹園の「つばさ共同保育園」ができた経緯もすべて、それぞれの時代の保護者と職員が要望を行政に届け、対話を重ねながら実現してきたのだと、今回私もはじめて知りました。住民と町行政が一緒につくってきた「子育てしやすい町・熊取」という財産が、人が代わり、時代が代わっても、大事にされ続けることを、改めてこの場所からみんなと考え続けたいと思います。